

## 埼玉県議会 令和7年2月定例会 細川威議員 一般質問

視覚障害者が公共施設や街中を安全かつ快適に利用するために、埼玉県では様々な整備が進められています。しかし、その一方で、整備はされているが、実際にはちょっと使いづらいという声は少なくありません。

例えば、トイレの個室に関する問題では、視覚に障害があると緊急ボタンと流すボタンの配置が分からないため、誤って緊急ボタンを押してしまうことがあるそうです。また、多目的トイレを使用する際に開けるボタンの位置が分からず、閉じ込められてしまうケースもあると聞いています。

そこで、福祉部長にお伺いします。バリアフリー整備は見た目の整備だけでなく、当事者の実際の使用状況を踏まえ、実用性を重視した設計が求められます。埼玉県では、視覚障害者にとって実際に利用しやすいかどうか、どのように検証され、当事者の意見を具体的に反映する仕組みをどのように行っているのか、お聞かせください。

## ◎ 福祉部長答弁

今回、議員から貴重な御指摘をいただきましたので、今後は視覚障害の方からも、県有施設などのバリアフリー整備に不都合がないか、御意見を聞く機会を設けてまいりたいと思います。

そして、何よりも大切なことは、施設の使いやすさを検証して終わらせることなく、視覚障害の方などからいただいた貴重な声を将来のバリアフリー整備に生かすことです。

そこで、いただいた御意見を集約・蓄積した上で、整備基準のガイドブックや県ホームページ等に分かりやすく具体的に掲載し、県有施設の施設管理者はもとより、市町村や建設業者など関係者に広く周知するとともに、意見の反映を依頼してまいります。その結果、好事例が生まれた場合は、積極的に事例の紹介も行ってまいりたいと考えております。

こうしたことを不断に繰り返すことによって、反映に向けた仕組みを構築し、誰にとっても本当に使いやすいバリアフリー整備を進めてまいります。

## 実施方法(案)

まずは、今後改修を予定しており、令和8年度に設計を行う県有施設をモデルに検証を行う。検証結果を踏まえ、令和9年度以降に設計予定の県有施設や、道路・公園等の検証を検討する。

### ① 視覚障害者団体等へのヒアリング

施設のどのような場所(屋内:トイレ、エレベーター等 屋外:誘導用ブロック、出入口等)で使いづらさを感じることが多いかを確認

### ② モデル施設のピックアップ

使いづらさを感じることが多い場所の改修を予定している県有施設をピックアップ

### ③ モデル施設での現場検証

視覚障害者団体等の会員・利用者にご協力いただき、使いづらさを感じることが多い場所を中心にモデル施設での現場検証を実施

### ④ 検証結果の公表・周知

視覚障害者の意見を写真や図も活用しながら、県ホームページ等に分かりやすく掲載(施設名は出さず事例として掲載)するとともに、施設管理者には改修設計において意見を反映するよう依頼

改修後は意見の反映状況を確認し、反映された場合は好事例として県ホームページ等で紹介